

# 牛久：学校周辺に見る自然

第45号 牛久自然観察の森

2016年11月13日発行

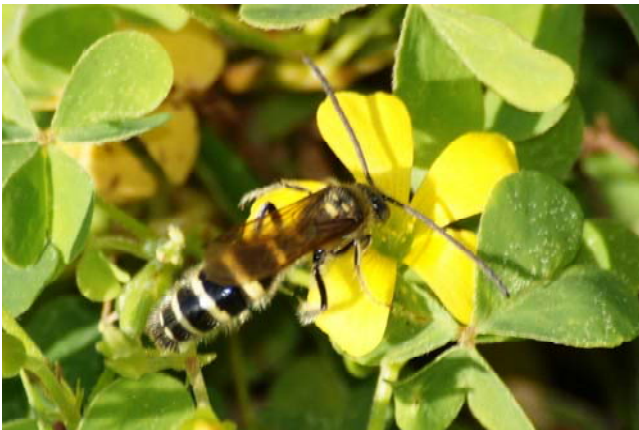
## ＜ 秋の日に、牛久自然観察の森を歩く ②花に来る昆虫 ＞

皆さん、こんにちは。秋の牛久自然観察の森、今回はチョウやハチなど、花に来る昆虫たちです。



セイタカアワダチソウの蜜を吸う、キンケハラナガツチバチのおす(左)とヒメアカタテハ(右)。

北米原産の帰化植物ですが、いまや秋の花の代表ともいえるセイタカアワダチソウ。花粉症の原因とのぬれぎぬを着せられたこともありましたが、ごらんの通り虫たちが花粉を運びます。スギなど花粉症の原因となる植物はこれらと違い、小さくて軽いたくさんの花粉を風にのせて飛ばすのです。



カタバミの蜜を吸う、ヒメハラナガツチバチのおす(左)とヤマトシジミ(右)。

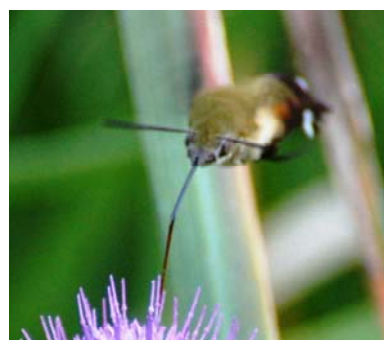
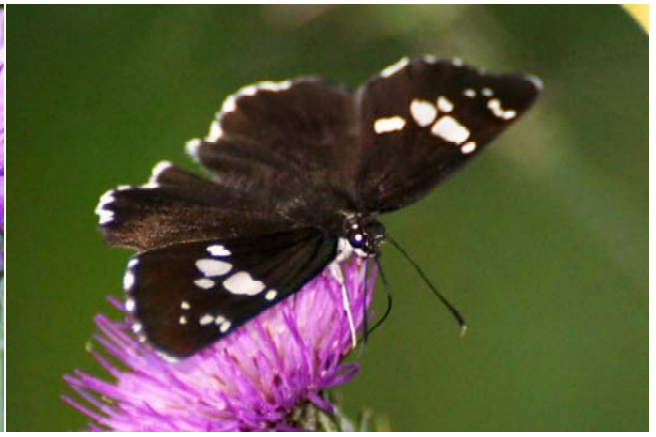
ここでも、カタバミの小さな花に、ヒメハラナガツチバチやこれを食草とするヤマトシジミが蜜を吸いに来ていました。小さい割に蜜は多いのか、あるいは小さくても花数が多いためか、キタテハやツマグロヒョウモンのような大きなチョウもやって来ます。



キク科のなかま、ヤクシソウにもキンケハラナガツチバチやヒメハラナガツチバチがやってきて、さかんに蜜を吸っていました。花の柄が細長いので、つかまると写真のようにたれ下がってしまいますが、うまくしがみついていたので吸っていました。きっと足の力も強いのでしょうね。

ヤクシソウの蜜を吸うキンケハラナガツチバチのおす。





ノハラアザミ<sup>かふん</sup>の花粉をなめる  
 ホソヒラタアブ<sup>みつ</sup>(左上)と、蜜を吸  
 うダイミョウセセリ<sup>す</sup>(右上)、  
 スズメガのなかま、  
 ホシヒメホウジャク(中)、  
 ヒメクロホウジャク(下2枚)、  
 左下では花の下にクモが。

秋に咲くアザミの代表ともいえるノハラアザミ。花には  
 昼はツマグロヒョウモンやキタテハなどが、夕方になるとス  
 ズメガのなかまがやって来てホバリングしながら蜜を吸いま  
 す。この日はホシヒメホウジャクが多く、ヒメクロホウジ  
 ジャクもまじっていましたが、どちらも花にはとまらず長い  
 ストロー<sup>す</sup>で吸うので、アザミは蜜を取られるばかり。花粉は  
 いくらも運んでもらえないでしょうね。【理科支援員:宮内】